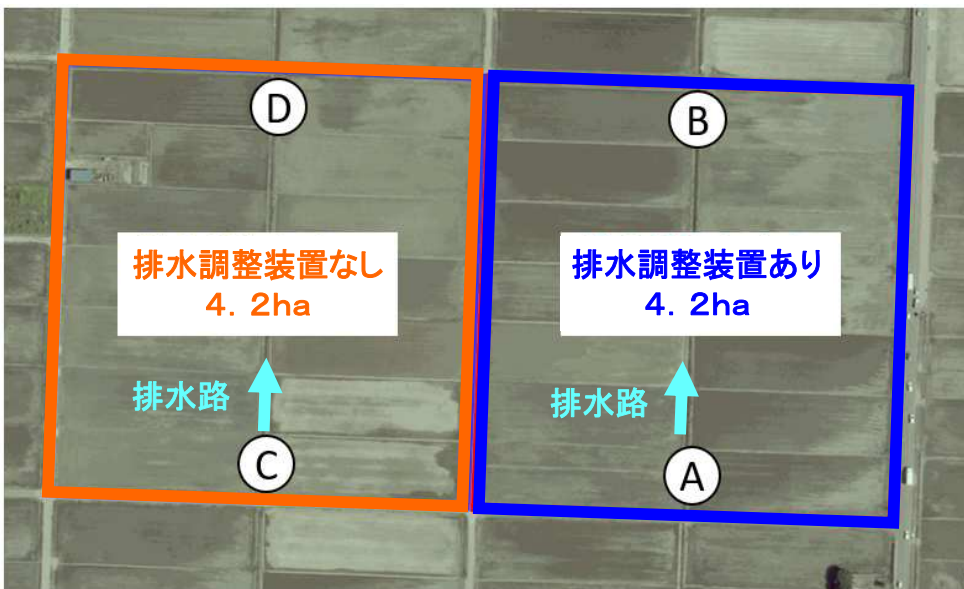


第2回 山形県田んぼダム推進情報連絡会のまとめ

令和5年2月
農林水産部農村整備課

1 実証ほ場の検証結果



田んぼダムでピーク時の排水流量が53%軽減

豪雨時の総排水量を30%抑制

川西町 排水流量算定方法

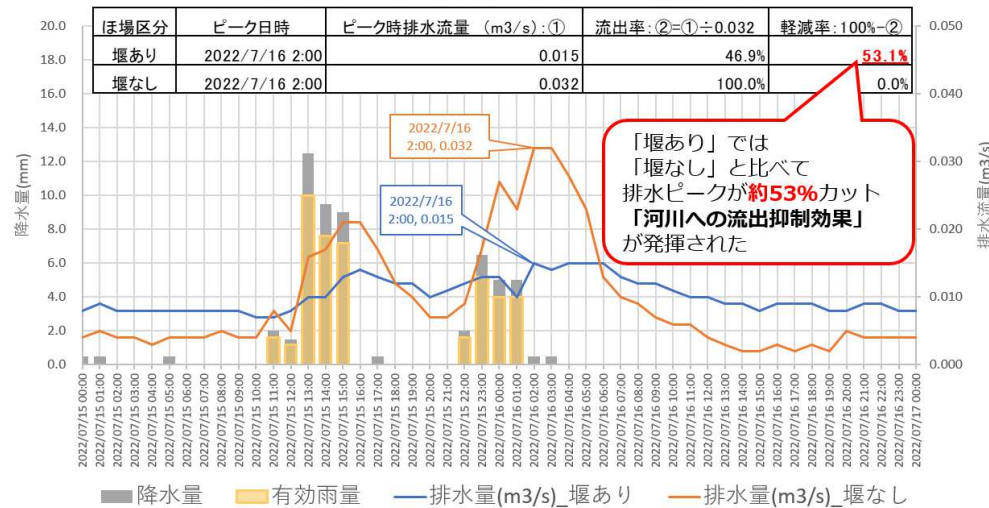
堰あり排水流量
= B地点流量 - A地点流量

堰なし排水流量
= D地点流量 - C地点流量

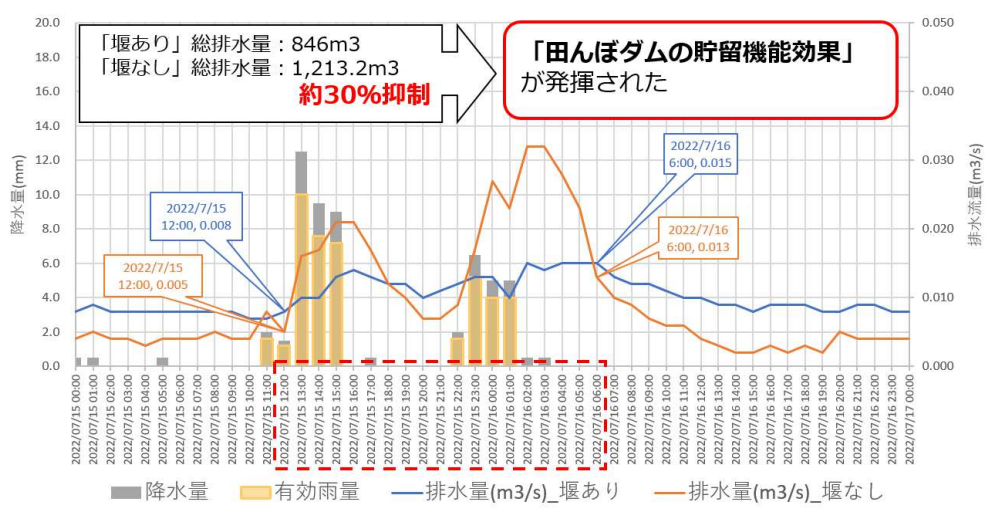


田んぼの排水調整装置 (排水口径40mm)

川西町実証ほ場 排水流量-雨量グラフ【7/15~7/17】



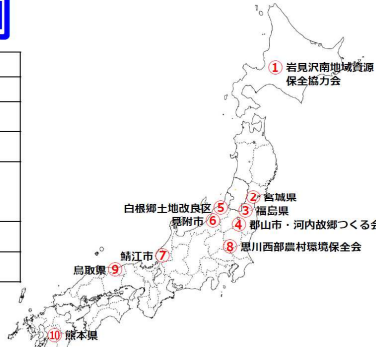
川西町実証ほ場 排水流量-雨量グラフ【7/15~7/17】



2 全国及び県内の取組事例集

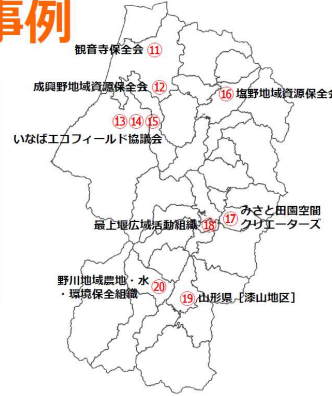
全国の取組事例

カテゴリ名	課題への対応事例
1 営農への影響	⑨鳥取県(P14) ⑩熊本県(P15)
2 農家メリット、インセンティブ	⑥豊前市(P11) ⑧思川西部農村環境保全会(P13)
3 活動組織の関わり	④郡山市・河内故郷つくる会(P9) ⑧思川西部農村環境保全会(P13)
4 行政の誘導、連携	①岩見沢南地域資源保全協力会(P6) ②宮城県(P7) ③福島県(P8) ④郡山市・河内故郷つくる会(P9) ⑨鳥取県(P14) ⑩熊本県(P15)
5 情報発信	②宮城県(P7) ⑦鯖江市(P12) ⑨鳥取県(P14)
6 適切な排水調整装置等の選定	⑤白根郷土地改良区(P10) ⑥見附市(P11)



山形県内の取組事例

カテゴリ名	課題への対応事例
1 営農への影響	
2 農家メリット、インセンティブ	⑫成興野地域資源保全会(P17) ⑬いなほエコフィールド協議会(P18)
3 活動組織の関わり	⑭いなほエコフィールド協議会(P19) ⑯野野地域資源保全会(P21) ⑰野川地域農地・水・環境保全組織(P25)
4 行政の誘導、連携	⑱最上堰広域活動組織(P23) ⑲山形県[漆山地区](P24)
5 情報発信	⑮いなほエコフィールド協議会(P20)
6 適切な排水調整装置等の選定	⑪観音寺保全会(P16) ⑰みさと田園空間クリエイターズ(P22)



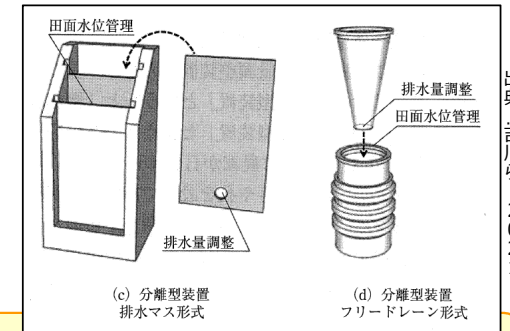
3 適切な排水調整装置の選定

調整装置のタイプ別の長短

	① 機能一体型	② 機能分離型
導入の容易性	○ 低コスト・導入が容易	△ 資材購入等のコストが発生
営農への影響	× 営農の水管理に左右	○ 営農への影響なし
排水量調整の効果	△ 降雨初期の排水量が小さく、排水抑制が必要な水位上昇時に排水量が大きくなる	◎ 降雨規模等の影響を受けず排水量が安定する



「②機能分離型」を採用すべき



出典：吉川ら，2021

4 今後の主な予定

- 田んぼの貯留機能効果の検証（令和5年度は村山地域の2地区で実施予定）
- 田んぼダムの条件整備（水尻設置や畦畔補強を令和5年度は6地区で実施予定）
- 情報連絡会の運営（令和5年度は村山地域で開催）や情報発信、周知活動

山形県ホームページ <https://www.pref.yamagata.jp/140029/kensei/tanbodamu.html>

主な意見

- ・ 県内で田んぼダムの効果が実証されたことは大きな成果。今後、農家や住民にPRしていきたい。
- ・ 水尻柵が未設置や壊れている所があり、今後、地元と協議して柵の設置や畦畔補強の要望を取りまとめたい。
- ・ 田んぼダムは、一定の流域単位で取り組むことが有効で、効果が見える化することが大切。
- ・ 農業所得を得る場である水田で、農家は河川管理者の呼びかけに応じてリスクを抱えながら取り組んでいる。田んぼダムを推進するためには、総合的に治水と利水の両面から柔軟な配慮やスタンスが求められる。
- ・ 上流の農家は下流の住民を思い、下流の住民は上流の農家に感謝するという相互扶助の精神により、農家の理解と協力を得ながら、流域治水を主導する河川管理者とともに田んぼダムを広げていきたい。